

第1学年 算数科学習指導案

日時 平成16年11月18日(木) 5校時
 児童 1年3組
 男子15名 女子18名 計33名
 指導者 瀧野澤 公美

1 単元名 「ひきざん」(東京書籍)

2 単元について

(1) 教材観

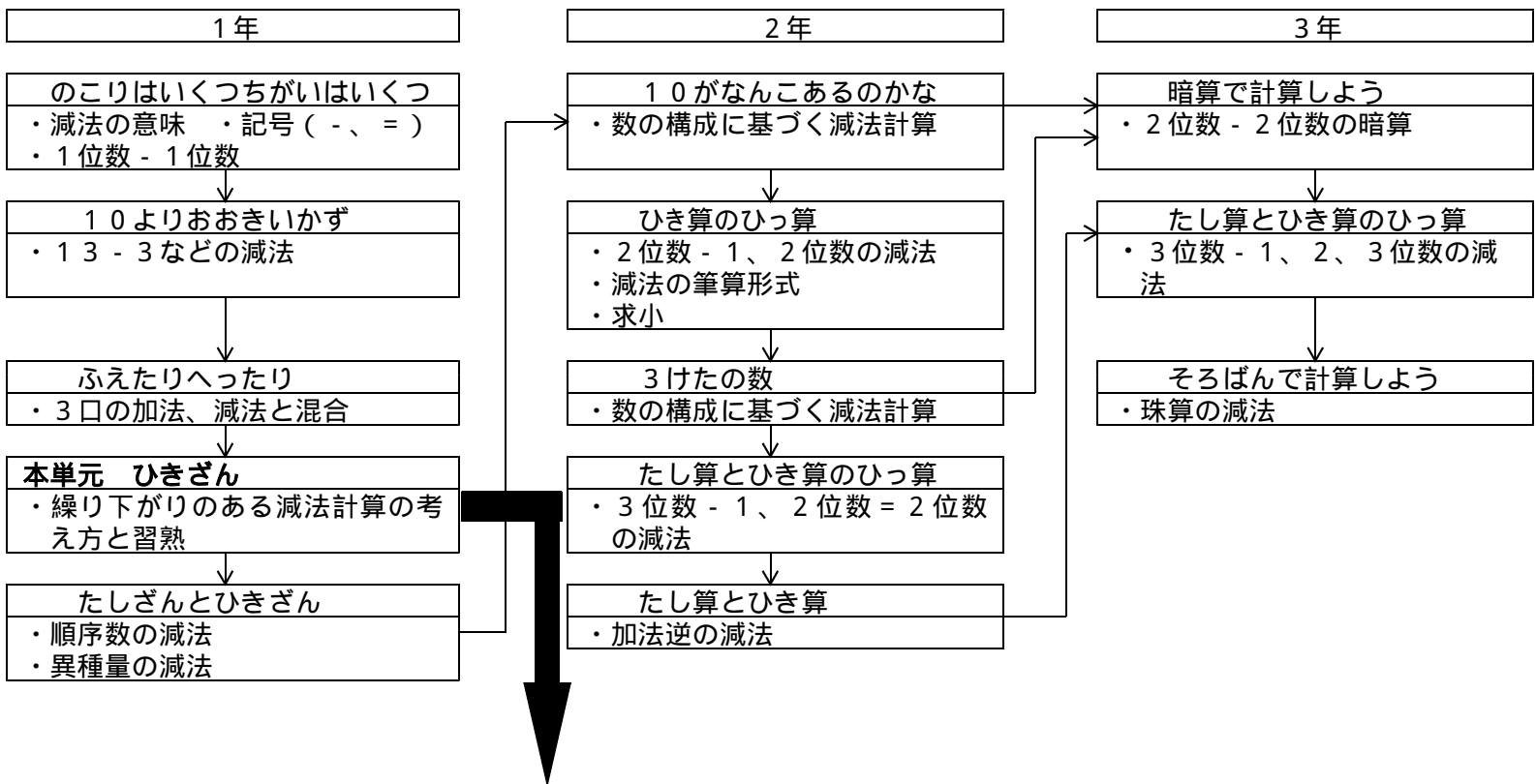
本単元は、学習指導要領の第1学年の内容A(2)「加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。」を受けたものである。

子どもたちは、これまでに1位数から1位数をひく計算や、 $13 - 3$ のような繰り下がりのない減法計算を学習しており、減法の意味や計算の仕方については理解している。また、前単元「たしざん」では、1位数+1位数で繰り上がりのある加法計算の仕方を学習し、10のまとまりをつくって計算する方法を身につけている。

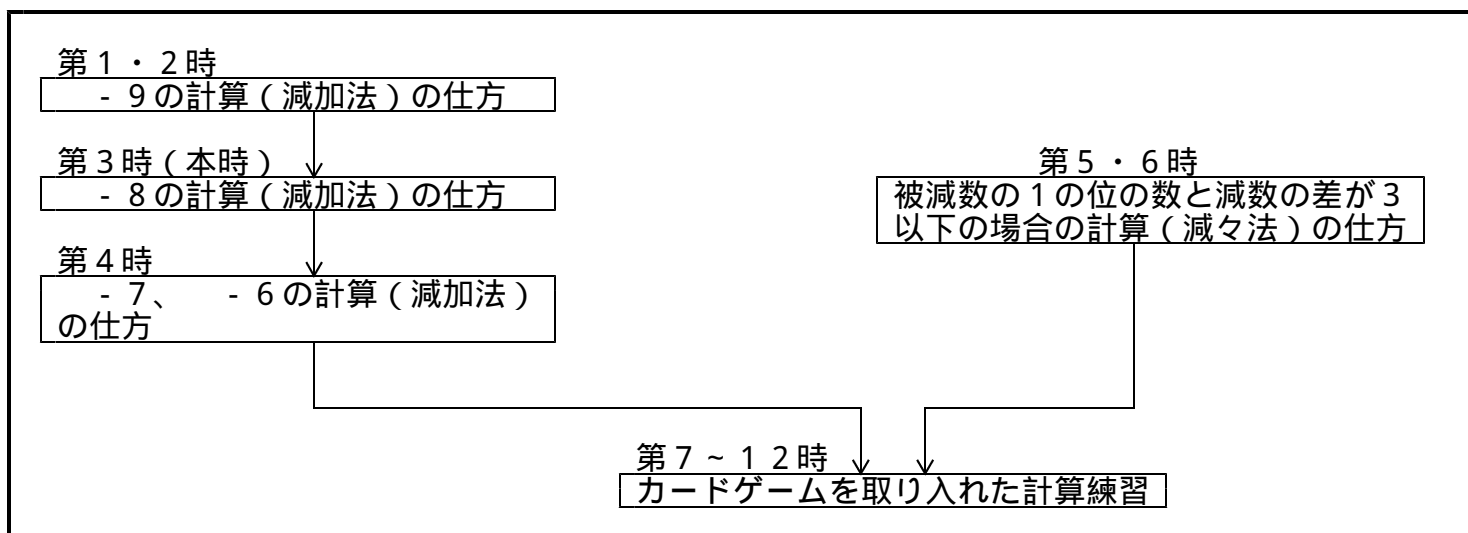
本単元では、11~18から1位数をひく繰り上がりのある計算の仕方を学ぶ。繰り上がりのある計算は、これが初めてであるが、1年生の学習内容として計算の基礎となる重要な内容であるので、筋道を立てて計算の仕方を説明することができるようにする必要がある。本単元では、繰り上がりのある減法の考え方として、減加法と減々法の二つの方法を扱う。始めに被減数を分解して計算する減加法を学習し、次に減数が小さい場合減数を分解して計算する減々法を学習する。計算の仕方を学んだ後、カードなどを利用して計算の習熟を図る。

本単元の学習は、2位数以上の減法計算へと発展する。

本単元の関連と発展は以下の通りである。



単元の教材構造



(2) 児童観

本単元では、初めて繰り下がりのある減法計算を学習する。

児童はこれまでに、1位数どうしの繰り下がりのない計算や $13 - 3$ のような計算を学習しており、これらの計算についてはほとんどの児童が正しく計算できるようになってきている。また、ひいて足すという減加法の型($10 - 8 + 3$)のような3口の計算のしかたも身につけてきた。10の合成・分解についてもすばやくできる児童が増えている。しかし、本単元で学習する被減数が11～18の計算は、繰り下がりが初出であることもあって、これまでの学習とは結びつけて考えられずに難解に感じる児童が多いと思われる。

レディネステストの結果をみると、1位数の繰り下がりのない加減、 $10 +$ や1 などの計算問題はよくできている。しかし、三口の計算の文章題の正答率は73%であった。文章だけの問題から場面をイメージすること、キーワードとなる言葉から加減の判断をすることについて、個人差が大きいと考えられる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、計算の考え方についての理解を確実なものとするため、半具体物を用いての算数的活動を十分にさせるようにしたい。まずは、被減数を分解し、10のまとまりから減数をひく減加法を中心に取り上げる。はじめに、減数をどのように取り去ればよいのかをブロックを使った具体的な操作を通して、自分で考える場を設定する。その後、効率よく減数を取り去れることから減加法に導き、ブロック操作を繰り返し行うことで計算のしかたの理解を図っていきたい。次に、減数が小さい場合減数を分解して計算する減々法を取り上げる。ここでも、自分で計算のしかたを考える場を設定する。また同様に、繰り返しブロック操作を行うことで計算のしかたの理解を図っていく。減加法、減々法どちらでも答えが同じになることを確認し、ひき算の考え方は1つではないことを知り、幅のある計算ができるようにしていきたい。

文章題を扱う場合は、文章から式を立てることが苦手な児童がいるという実態から、立式の際の見通しを丁寧に扱っていく必要がある。

理解に時間がかかったり作業速度が遅かったりする児童数名には、すこやかサポートと個別に指導を行い、確実に学習内容を理解できるようにする。

3 目標

11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算のしかたを理解し、それをを用いることができる。

< 関心・意欲・態度 > ・数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、11～18から1位数をひいて繰り下がりの計算のしかたを進んで考えようとする。

< 数学的な考え方 > ・18までの数の構成や10の補数に着目して計算のしかたを考える。

< 表現・処理 > ・11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算できる。

< 知識・理解 > ・11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算のしかたを理解する。

5 本時の指導

(1) 目標

・

(2) 本時指導の考え方

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 11 ~ 18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法 (減加法) について考え、その方法 (減加法) でブロック操作をすることができる。

(2) 本時指導の考え方

本時は、繰り下がりのあるひき算の計算で、減加法についての意味や仕組みなどについての理解を確立するために算数的活動について取り組ませる。一つめは、ブロックを使って計算のしかたを考える算数的活動である。10のまとまりに着目できるように、どこから減数9をひくのがよいのかということ意識させて、自力解決に入りたい。児童からは、数えひき、減々法、減加法の考え方が出てくると思われる。どの考え方で答えができることを確認した後に、児童の説明、教師のブロック操作の演示から、減数9を10のまとまりから一回にひくことのできる減加法の効率のよさに気づかせたい。二つ目に、減加法の計算のしかたをブロックを使って繰り返し操作を行ったり、唱えたりする算数的活動を行うことで理解を深めるようにする。ブロック操作を行うときなど、支援が必要な児童がいる場合は、すこやかサポートと個別指導を行うようにする。

(3) 展開

| 段階 | 学習活動 算数的活動 | 予想される 児童の反応 | 指導上の留意点・手だて Bに到達した子への手だて Bに到達しない子への手だて | 評価規準 具体の評価規準 (評価方法) | 準備 | | | | | | | | |
|-----------|--|--|--|------------------------|-------------|----|---|---|----|----|---|--|---------------------------|
| つかむ 5分 | 1 問題把握 水そうに 40 cm まで水を入れるとすると、何分かかりますか。 2 課題把握 比例の特ちょうを使って何分かかりますか考えよう。 | ・ 40 は 4 の 10 倍だから時間も 10 倍ではないか。 | ・ まず表を提示し水を入れる時間と水の深さは比例しているか確かめる。 ・ 求められそうかを問い、児童の気づきから比例の性質を使えば求められそうだと気づかせる。 | | ・ 問題 ・ 表 | | | | | | | | |
| 見通す 5分 | 3 解決の見通し | ア一方が 2 倍 3 倍・・・となると他方も 2 倍 3 倍・・・となる イ に決まった数をかけると 深さになる。 ウ水の深さを 4 で割ると時間になる。 エ 4 ずつ増える。 オ時間と深さは 1 : 4 になっている | ・ 使えそうな比例の決まりは何か見通しを持つ。 ・ 児童から出されない場合教室の比例の性質の掲示を全員で確かめる。 | | | | | | | | | | |
| つく く | 4 自力解決 (1) 水そうに 40 cm まで水を入れるとすると、何分かかりますか考える。 (2) 表に線を書き込むなどして考えをノートにまとめる。 | ア 1×10 答え 10 分 イ $\times 4 = 40$ $= 10$ 答え 10 分 ウ $40 \div 4$ 答え 10 分 エ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>10</td></tr> <tr><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>40</td></tr> </table> | 1 | 2 | 3 | 10 | 4 | 8 | 12 | 40 | ・ つまずいている児童が多い時は比例の定義を用いた方法を一斉指導する。 ・ 表に矢印を書き込むなどしてもとにした比例性質と考えの根拠をはっきりさせる 比例のどのきまりを使ったのが説明できるようにのノートに書かせる。また、ほかの方法もできないか考えさせる。 表から 40 cm は 4 cm の 10 倍になっていることに気づ | | ・ ノート 貼り付け用の表 (色分け) |
| 1 | 2 | 3 | 10 | | | | | | | | | | |
| 4 | 8 | 12 | 40 | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|--|--|
| <p>る</p> <p>20分</p> | <p>5 集団解決</p> <p>(1) 結果を発表する。</p> <p>(2) 共通点を話し合う。</p> <p>(3) 適応問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 水を 1.2 m まで入れたとすると何分かかりますか。 </div> | <p>オ 1 : 4 = : 40 答え 10分</p> <p>・比例の定義を使っている。 ・表を活用している。 ・商一定を活用している</p> | <p>かせ、一緒に式を立てるその後、比例の性質をまとめたノートから比例の性質を確認する。</p> <p>・どの方法も比例の関係のきまりを活用していることから、比例関係にある数量間では、その定義や性質をもとに表にないところを考慮することができることを確認する。</p> <p>・1.2 m は 120 cm であることを確かめる。 ・使う性質を選ばせて一つだ</p> <p>・立式できない児童がいる場合、定義を用いて一緒に立式する。</p> | <p>比例の性質を活用し答え 30分を導くことができたか。</p> | <p>・表の続 (10分まで)</p> |
| <p>まとめる</p> <p>5分</p> | <p>6 学習のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 比例の関係にある 2 つの量は、そのきまりを使って、表にない量も計算で求めることができる。 </div> | | <p>・表や児童の発表と結びつけながらまとめる。</p> | | |
| <p>い</p> <p>か</p> <p>す</p> <p>10分</p> | <p>7 練習</p> <p>(1) 教科書 5 ページの を解く。 1) 比例の判定 2) 針金の長さ と重さ</p> | <p>(1) 長さが 2 倍 3 倍・・・となると針金の重さそれにもなって 2 倍 3 倍・・・となっているから。</p> <p>(2) ア長さが 10 倍だから重さも 10 倍になる 18×10</p> <p>イ ÷ がいつも 9 になるから $\div 20 = 9$</p> <p>ウ長さの 9 倍が重さになるから 20×9</p> | <p>・判定した根拠がいえるように考えさせる。 ・比例の性質で判定している場合は、比例といえるのはどのような場合だったかを確かめ定義に気づかせる。</p> <p>比例のどのきまりを使ったのか説明できるようにのノートに書かせる。また、ほかの方法もできないか考えさせる。</p> <p>長さが 10 倍になっていることから比例の定義にもとづいて重さも 10 倍になっていることを教え一緒に立式する。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 表を活用し、比例の性質を用いて問題を解決することができる。 </div> <p>A 比例関係の性質をもとに多様な方法で問題を解くことができる B 比例関係の性質をもとに問題を解くことができる。</p> <p>(行動観察、ノート)</p> | <p>・表 ・ノート 貼り付け用の表 (色分け)</p> |

(4) 板書計画

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|--|--|--|--|---|---|--|
| <p>問題</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%; height: 20px;"></td> <td style="width: 12.5%; height: 20px;">1</td> <td style="width: 12.5%; height: 20px;">2</td> <td style="width: 12.5%; height: 20px;">3</td> <td style="width: 12.5%; height: 20px;">4</td> <td style="width: 12.5%; height: 20px;">5</td> <td style="width: 12.5%; height: 20px;">6</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;">4</td> <td style="height: 20px;">8</td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> <p>水そうに 40 cm まで水を入れるとすると何分か</p> | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | 4 | 8 | | | | | <p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 比例の特ちょうを使って何分かかかるか考えよう。 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ウ 式 答え </div> | <p>まとめ</p> <p>比例の関係にある 2 つの量は、そのきまりを使うと表にない量も計算で求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 1.2 m まで水を入れたとすると何分かかりますか。 </div> |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | |

かりますか。

比例のきまり特ちょう

・
・

ア

式
答え

イ

式
答え

| | | | | | |
|--|----|----|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | 18 | 36 | | | |

(1) 児童観

本単元では、初めて繰り下がりのある減法計算を学習する。

児童はこれまでに、1位数どうしの繰り下がりのない計算や $13 - 3$ のような計算を学習しており、これらの計算についてはほとんどの児童が正しく計算できるようになってきている。また、ひいて足すという減加法の型($10 - 8 + 3$)のような3口の計算のしかたも身につけてきた。10の合成・分解についてもすばやくできる児童が増えている。しかし、本単元で学習する被減数が11～18の計算は、繰り下がりが初出であることもあって、これまでの学習とは結び付けて考えられずに難解に感じる児童が多いと思われる。

レディネステストの結果をみると、1位数の繰り下がりのない加減、 $10 +$ や $1 -$ のような計算はよくできている。 $12 - 9$ という繰り下がりのある問題でも、方法は明らかではないが約7割の児童が正答を導き出している。その一方で、1位数の計算も指を使っている児童もあり、個人差が大きい。

(2) 指導観

本単元の指導にあたっては、半具体物を用いた算数的活動を十分に取り入れることにより、計算の仕方についての理解を確実なものとしたい。そこで、ブロック操作などを通して、減加法と減々法の2つの方法について理解させながら、正しい答えへと到達するように進めて行く。個人差も大きいので、ブロック操作についても、教師の操作、指名された児童による操作、グループでの操作、個人での操作というようにさまざまな形で繰り返し扱って理解を図る。そして、理解の早い児童については、ブロック図を用いて説明する方法にも取り組ませて、理解を深めるようにしていく。

また、計算の仕方について自分で考える場を設定し、既習の内容を生かして主体的に学習に取り組む姿勢を育てていきたい。

3 目標

11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算のしかたを理解し、それを用いることができる。

- < 関心・意欲・態度 > ・数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算のしかたを進んで考えようとする。
- < 数学的な考え方 > ・18までの数の構成や10の補数に着目して計算のしかたを考える。
- < 表現・処理 > ・11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算ができる。
- < 知識・理解 > ・11～18から1位数をひいて繰り下がりのある計算のしかたを理解する。

4 指導計画と評価計画

| 時 | 目 標 | 学習内容・活動 | 評 価 規 準 ・ 具 体 の 評 価 規 準 | | | | 主な算数的活動 |
|---------|---|---|-------------------------|---|--|--|---|
| | | | 関心・意欲・態度 | 数学的な考え方 | 表現・処理 | 知識・理解 | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法(減加法)について考えることができる。 ・被減数を分解して計算する方法(減加法)で、ブロック操作をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面を読み取り立式する。 ・13-9の計算のしかたを考える。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・繰り下がりのあるひき算の仕方について考えている。 A10のまとまりに着目している。ブロック操作をして正しく答えを考えることができる。 Bブロック操作をして、正しく答えを考えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・減加法でブロック操作を行うことができる。 A手順を言葉で説明しながら減加法でブロック操作を正しく行うことができる。 B手順に合わせて減加法でブロック操作を正しく行うことができる。 | | 仮説イ <ul style="list-style-type: none"> ・13-9の計算の仕方を考えている。 仮説ア <ul style="list-style-type: none"> ・減加法で13-9のブロック操作をする。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解する方法(減加法)について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・減加法による計算方法をまとめる。 ・減数が9の場合の計算に取り組み、理解を深める。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・減加法による計算の仕方を理解している。 A計算の仕方を説明したり、ブロック図にかき込んだりできる。 Bブロックを操作しながら、計算の仕方を唱えることができる。 | 仮説ア <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを操作し、減数が9のひき算を減加法で計算する。 |
| 3 本時 | <ul style="list-style-type: none"> ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・減数が8の場合の計算の仕方を考える。 ・減加法による計算方法について理解を深める。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・減加法による計算が確実にできる。 A図や念頭操作で、ブロックを使わずに減加法で計算できる。 Bブロックを操作して減加法で計算できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・減数が8の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。 A計算の仕方を説明したり、ブロック図に書き込んだりできる。 Bブロックを操作しながら計算の仕方を唱えることができる。 | 仮説ア、イ <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを操作し、減数が8のひき算を、減加法で計算する。 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・減数が7、6の場合の計算の仕方考える。 ・減加法による計算方法について理解 | | <ul style="list-style-type: none"> ・減加法による計算が確実にできる。 Aブロックを操作したりプロ | <ul style="list-style-type: none"> ・減数が7、6の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解 | 仮説ア、イ <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを操作し、減数が7、6のひき算を、 | |

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|--|---|--|--|----------------------------|
| 4 | | を深める。 ・計算練習をする。 | | | ック図をかいたりしながら、減加法で計算する。 Bブロックを操作して減加法で計算できる。 | している。 A計算の仕方を説明したり、ブロック図にかき込んだりである。 Bブロックを操作しながら計算の仕方を唱えることができる。 | 減加法で計算する。 |
| 5 | ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、減数を分解して計算する方法(減々法)について理解する。 | ・場面を読み取り立式する。 ・12-3の計算の仕方を考える。 ・減々法による計算方法について理解する。 | | ・既習の計算方法を活用し、被減数の一の位と減数の差が3以下の場合の計算の仕方を考える。 A減加法だけではなく、減々法にも気づき、計算の仕方を考えている。 B既習の減加法で計算の仕方を考えている。 | | | 仮説イ ・12-3の計算の仕方を考える。 |
| 6 | | ・減々法による計算方法について理解する。 ・計算練習に取り組む。 ・文章題を解決する。 | | | | ・減々法による計算の仕方を理解している。 A減々法の計算の仕方を説明できる。 Bブロックを操作しながら、減々法の計算の仕方を唱えることができる。 | 仮説ア ・ブロックを操作し、減々法で計算する。 |
| 7 ~ 12 | ・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習をする。 | ・カードを使ったひき算のゲームをしたり、計算練習をしたりする。 | ・カードを用いた計算練習に進んで取り組む。 Aいろいろなカードを用いた活動に積極的に取り組んでいる。 Bいろいろな活動を行っている。 | | ・11～18から1位数をひく減法計算が確実にできる。 Aすらすらと問題を解いたりカードを出したりできる。 Bブロックを使いながら、正確に答えをだしたり、カードを出したりできる。 | | 仮説ウ ・カードを使ったひき算のゲームをする。 |

5 本時の指導

(1) 目標

- ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法の理解を確実にする。

(2) 本時指導の考え方

本時の主な算数的活動は、ブロックを用いた操作活動である。14 - 8の計算のしかたを考える際に、10のまとまりから8をひいて考える減加法の考え方を確実なものとするために、言葉で説明しながらのブロック操作を一斉 グループ 個人のように繰り返し行う。練習問題についても同様で、理解を確実なものとするために、ブロックの操作を通して答えを出すようにする。また、作業の速い児童については、ブロック図に記入して考え方をまとめる活動も取り入れ、より理解を深めるようにする。

(3) 展開

| 段階 | 学習活動 算数的活動 | 予想される 児童の反応 | 指導上の留意点 Bに到達した子への手立て Bに到達しない子への手立て | 評価規準 具体的評価規準(評価方法) | 準備 |
|---------------|---|---|---|--|----------------------------------|
| つかむ・見通す 5分 | <p>1 問題把握</p> <p>14 - 8のけいさんをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時との違いを考える。 <p>2 課題把握</p> <p>14 - 8のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>3 解決の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の計算のしかたを想起する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ひく数が9から8にかわった。 <p>しかたをかんがえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10からひく。 | <p>Bに到達した子への手立て</p> <p>Bに到達しない子への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時同様繰り下がりがあること、しかし、減数が違うことに気づかせる。 ・前時までの減数が9の場合の計算のしかたについて、掲示物をもとに想起させる。 | <p>評価規準</p> <p>具体的評価規準(評価方法)</p> | <p>ワークシート</p> <p>紙板書</p> |
| つくる | <p>4 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの扱い方について確認する。 <p>ブロックを操作して自力解決に取り組む。</p> <p>5 集団解決</p> <p>(1) 解決結果を発表する。</p> <p>(2) ブロック操作をして確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のブロックの図 | <ul style="list-style-type: none"> ・10からひいている。 ・一の位の4からひきはじめている。 <p>4から8はひけない。</p> <p>14を10と4に分ける。</p> <p>10から8をひいて2。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・必要な数のブロックを操作箱の中に準備させ、その中で操作すること、ひいたブロックは線より右側に移動することを確認する。 ・操作の様子を見取るため、ブロックは10は黄色で4は白で出すように指示する。 <p>ブロックを操作した通りにブロック図に記入する。</p> <p>一緒にブロックを操作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの操作と言葉とを結び付けて発表させる。 ・教師の操作、指名された児童による操作、隣同士での操作、個人での操作を行い、確実な | <p>↑</p> <p>減数が8の場合でも、10のまとまりからひけばよいことを理解している。(知・理)</p> <p>A 計算のしかたを説明したり、ブロック図に書き込んだりできる。</p> <p>B ブロックを操作しながら、計算のしかたを唱えることができる。(発言・観察)</p> | <p>ブロック</p> <p>ブロック</p> <p>図</p> |

| | | | | | |
|------------|---|---|--|--|--|
| 23分 | でも確認する。 (3)計算のしかたを式に書き込む。 (4)適用問題を解く。 ・ 11 - 8 | 2と4で6 | ものとする。 ・ ブロックの扱いについて再度確認する。 | | |
| まとめ 2分 | 6 学習のまとめ 8をひくときも、10のまとまりからひくとよい。 | | ・ 再度課題に立ち返ってまとめる。 | | |
| いかす 15分 | 7 練習 ・ 練習問題を解く。 13 - 8 15 - 8 8 学習の振り返り ・ 項目ごとに振り返り、感想を発表する。 | ・ブロックを操作してから計算のしかたを書く ・ブロック図に書き込む ・ワークシートに記入する。 | ・ ブロックを使わずに答えが出せる児童についてもこの段階では、ブロックを操作して答えを出させ、減加法の理解を確実なものとする。 別の練習問題を与える。ブロックなしで取り組ませる。 一緒にブロックの操作の仕方を確認しながら、計算のしかたの書き方を支援する。 ・ 次時の学習内容を知らせる。 | 減加法による計算が確実にできる。(表・処) A 図や念頭操作で、ブロックを使わずに減加法で計算できる。 B ブロックを操作して減加法で計算できる。(ワークシート・観察) | |

(4) 板書計画

11 / 18 P. 73

14 - 8のけいさんをしよう。

めあて

14 - 8のけいさんのしかたをかんがえよう。

まとめ

8をひくときも、10のまとまりからひくとよい

| | | |
|---|------------|------------|
| | 14 - 8 = 6 | れんしゅう |
| ブロック図 | | |
| 10からひく | 10 4 | 10 3 |
| 4から8はひけない。 14を10と4にわけろ。 10から8をひいて2。 2たす4で6 | 11 - 8 = 3 | 15 - 8 = 7 |
| ブロック | | |
| | 10 1 | 10 5 |